

選挙権年齢引き下げ、若者たちは…

# この夏、それぞれそれぞれの思い托して

## 18歳以上選挙権で初の国政選挙 権利行使の若者たち、ここにも

18歳に選挙権——。公職選挙法改定後、初の国政選挙となった今夏の参議院議員通常選挙。本誌が店頭に並ぶころには改選後の顔ぶれが決まり、各地の投票率もあきらかになっているだろう。新たな権利を行使した若者たちは、果たして何人に上ったか。それぞれ一票には、どんな思いが込められていたか。たとえば、彼らの場合は…。

「国民がどんどん意見を  
願ひ込めて投じる」

この秋に成人する札幌市東区の建設作業員・杉本亮介さん(19)は、幼いころから新聞を読むことが好きだった。「仕事するようになってからは、あ

まり深く読む時間がないですけど」それでも毎朝、職場に置いてある朝刊の見出しなどには一通り眼を通す。「18歳選挙権」の報は、やや距離を置いて受け止めた。「国は表面上『いろんな意見を』と言うんでしょけど、なんか裏の意図もありそうで…」

少年院では在院者のプライバシーに配慮し、投票は1人ずつ行なわれる(7月4日午後、千歳市の北海少年院)

むしろ「25歳ぐらいからでよいのでは」とも思いつつ、自身は初めての投票に赴くつもりだという。

4人兄妹の三男として、関西地方で生まれ育った。両親が離婚した時1人だけ父のもとに残ったが、その父は働かない人だったという。高校を中退して親を養い続けたが、どう頑張っても生活費に事欠く日々。昨年春、ひたたくりで逮捕され、地元少年院に入った。

在院中に「職親プロジェクト」という取り組みを知り、関心を寄せた。再犯防止に理解のある企業で就労体験ができ、雇用に繋げて貰えるケースもあるという。出院とともに単身、来道。身を寄せた北洋建設(札幌市東区、小澤輝真社長)はプロジェクトの協力企業で、もともと少年院や刑務所を出た人たちが積極的に雇用する会社として知られる。幅広い世代が寝泊まりする社員寮での生活は、もう3カ月が過ぎた。「父親の所には戻らないと思います。ここで経験を積んで、将来は独立したい。少年院で習った製図の技術を活かせる仕事があれば」



少年院の不在者投票では「投票箱」を設置しないため、二重封筒に入れた票を投票管理者(院長)に手渡す(北海少年院)

### 少年院で不在者投票 初の選挙に「緊張」も

7月4日午後、千歳市の北海少年院。

紺のジャージに青いポロシャツ姿の少年(18)が、職員から投票用紙と封筒を受け取り、短い説明を受ける。記載台で鉛筆を走らせて綴った候補者・政党の名は、直前まで待機していた部屋で選挙公報に眼を通して決めたのか、あるいは普段から閲覧できる新聞の情報で判断したのか。記入後の用紙を二重封筒に納め、自分の手で糊づけ、封筒表面に署名し、

投票管理者(柳光司院長)に手渡す。選挙区と比例区で同じ作業を2度繰り返す。一礼して「投票所」を退出。北海少年院は、施設2階にある約150㎡の「大会議室」を利用してその場を設けた。

公職選挙法は、禁錮以上の刑に服している人の選挙権を認めていない(同11条)。成人の受刑者には投票権が与えられないことになるが、少年院で過ごす人たちは刑罰を受けているわけではないため、対象年齢に達していれば「不在者投票」という形で投票ができる。

「年齢の引き下げは、若者の視点を採り入れようという動きだと思っただけで、投票しました」

7月1日に投票を済ませていた少年が、職員に寄せた言葉だ。北海少年院には4日時点で、18歳以上の在院者が27人いた。うち未成年7人を含む11人が投票の意志を示し、施設内で投票することに。「候補者の名前を憶えるのが大変だった」「何度も糊づけするのが手間だった」「緊張した」などと初めての体験を振り返りつつ、ほとんどの少年が次の選挙も必ず投票に行くと言ったという。同院の大西史人次長は「教育の一環

**新たに9万7千人  
それぞれの思い抱え**

「政治には興味ないし、いきなり権利を渡されてもよくわからない」小学生のころから専職に憧れていたという建設作業員の山川裕大さん(18)は、今年1月に誕生日を迎えて有権者となった。本稿冒頭に登場し

読する新聞の閲覧も認めており、有権者たる少年はそれらを参考に投票先を決めることになる。6日の投票時には、投票管理者の後藤雅彦所長を含む職員3人が立ち会った。

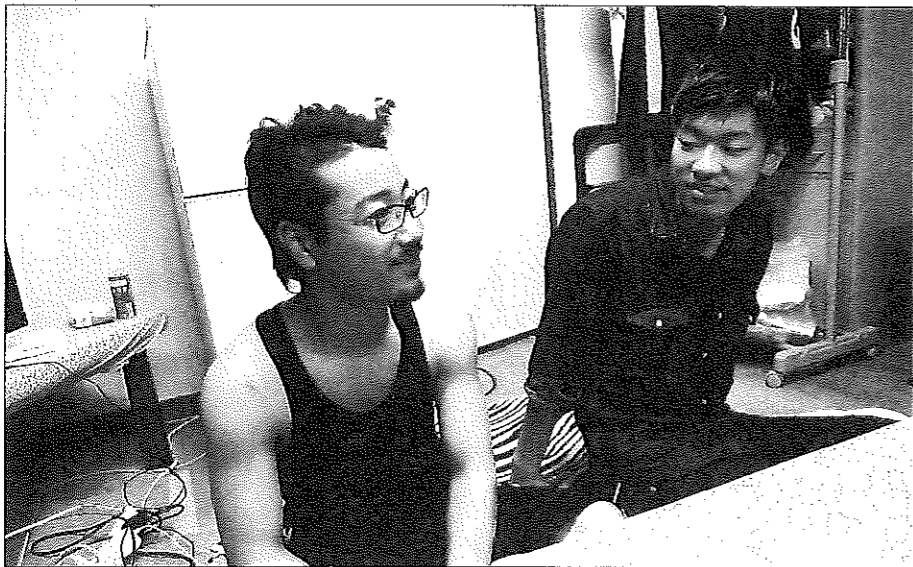
道内にはほかに旭川、函館、及び釧路に少年鑑別所があり、また少年院は先の北海少年院に加え、帯広市の帯広少年院、空知管内月形町の月形学園、及び女子を収容する千歳市の紫明女子学院の計4カ所ある。参院選の投票権を得た18歳以上の被収容者が何人に上り、結果的にそのうち何人が権利を行使したかは本稿締め切り時点で定かでない。道内の矯正施設を監督する札幌矯正管区によれば、選挙権年齢引き下げ後初の取り組みを機に、今月中旬を目途に今回の実績をまとめて法務省に報告することになるという。

「経済の話とかは選挙で出てくるけど、パブルみたいなのはもう要らないですよ。国が税金を無駄に使わなきゃいいだけ。そんなこと

た杉本亮介さんとともに、札幌市東区の北洋建設で働く。少年院などで過ごした経験はないが、非行歴のある仲間への偏見はとくにない。同世代の杉本さんが投票に意欲的なのに対し、政治への関心はほとんどなかった。

「ただ、20歳まで年金貰えなかったり、そういう制度への疑問はありますね」

引き合いに出す「年金」とは、障害者年金のこと。早くから当事者と認定され、特別支援学級に通っていた。現在は市内の自宅を離れ、グループホームから職場に通動している。自分のこととして関心を寄せる障害者福祉の問題はしかし、ほとんど参院選の争点になっていない。



「どの党に入れるかは決めている」という杉本亮介さん(左)に対し、山川裕大さんは「白票になるかも」(札幌市東区の北洋建設社員寮)

議席数が1つ増え、未成年の有権者が9万7千人ほど加わった北海道の選挙。10歳代の選挙人たちは、手にした「民意」にどんな思いを込め、誰にそれを托したのか――。

(7月6日までの取材による)

【※少年院や少年鑑別所などの不在者投票の様子は、P88のカラーグラフィックで紹介しています】

より安全で暮らしやすい国にして欲しい。国民を大事にして欲しい」

アルコール依存症で家庭内暴力が酷かった父が家を出て以来、時おり母や祖父の顔を見に実家を訪ねている。最近、母が倒れたのを機に、福祉資格の取得を真剣に考え始めた。自身の生活に引きつけて考えれば、

必ずしも政治とのかかわりを感じないわけではないようだ。18歳選挙権については「ちよūdい線の引き方」と捉えている。

「子供の眼から見た判断だっただけでいいと思います。ただ、結局は誰が政治家になっても変わらないと思うし、やっぱり選ぶのは難しい」

そのあたりは、同僚の杉本さんも同意する。

「たしかに、政治と金の問題とか信用できない人は多いと思う。でも、自分でもし彼らの立場だったら、同じように私利私欲に走るかもしれない。誰だっただけ欲のある人間だし」

社会は、まさにその人間がつくるものだ。そこに直接参加する機会を誰もが平等に得られる場合は、選挙を措いてほかにない。



年齢引き下げによる初めての試みで、地元選挙の説明会に赴いた札幌少年鑑別所の職員たち(6月13日午後、札幌市東区の東区民センター)

になった」と受け止め、少年たちには「皆さんの決断は素晴らしいこと」と伝えた。

「みんな真剣に取り組んでいましたね。嬉しさと緊張が入り混じっていました」

た感じで、「せっかく機会を買って投票しない人なんているんですか」と言う少年がいたほど」

投票の感想を求められた少年たちは、「大人の仲間入りをした気分」「自分の意見を示した事実が残ることが大切」「候補者には公約を実現する努力を見せて欲しい」「少子高齢化が進む中、若い世代も幸せになれば」と願ったなどと話していたという。

**「些細なことでも言い争わない国に」**

在院中に成人を迎えることになる少年もいるため、少年院ではこれまでも不在者投票を行なってきた。北海少年院でも、本年4月下旬にあった衆議院議員北海道5区の補欠選挙で、20歳の在院者のために投票の機会を設けている。年齢引き下げで対象者が拡大しても作業内容はほぼ変わらないが、「参院選では事務量が3倍ぐらいに増えた(担当職員)」。

今回初めて、処遇が決まる前の少年が過ごす少年鑑別所でも投票が行なわれるようになったことから、公示前の6月15日に法務省矯正局から鑑別所との連携について指示があったという。翌16日には地元・千歳市

の選挙管理委員会が設けた不在者投票票事務説明会に参加、6月末までに少年たちに投票の意思を確認し、選挙の概要や投票の方法などを1人ひとり個別に説明した。北海道外に住民票がある在院者もいるため、当地の選挙から投票用紙などを取り寄せた。

不在者投票の場では、投票管理者の1柳院長と立会人の井田典秀・統括専門官が少年の投票を見守った。票が納められた二重封筒の裏面に立会人が署名し、各地の選挙に送り届けることになる。

**鑑別所では初の試み  
希望者1人、所内で実施**

若い彼らの率直な声に、大西次長は感心するばかりだ。

「私自身が18、19歳だったころを振り返ると、彼らのほうがよほどしっかりしてますよ」

札幌市東区の札幌少年鑑別所(後藤雅彦所長)は、6月13日に開かれた区選挙の事務説明会に参加した。前述したように、鑑別所での不在者投票は史上初めて。とはいえ、在院者は年々減る傾向にあり、札幌では定員135人に対し7月5日時点で在所中だった少年は7人。うち18歳以上は4人おり、28日に投票の意向を確認したところ、道内に住民票がある男子1人が手を挙げた。これを受けて7月6日午後、施設3階の「集団テスト室」で不在者投票が行なわれている。

鑑別所の入所期間は、おおむね3〜4週間。出入りが激しく、いつ18歳以上の少年が入所してくるようになるかわからないため、準備には慎重を期したという。少年院と同様、候補者や政党に関する情報は選挙公報を通じて提供するほか、施設で購